

水稻水不足に対する技術対策

経営技術課技術指導班

平成 31 (2019) 4 月 22 日

1 水稻栽培上の技術対策について

まとまった雨が降らずに、河川の水不足が続くようであると、田植えに必要な代かき作業ができず、田植え作業が遅れる地域があると予想される。そのため、現在育苗している水稻苗の老化を防止しながら健全に保ち、遅れた田植えに対応できるよう、次の対策を実施する。

2 育苗管理について

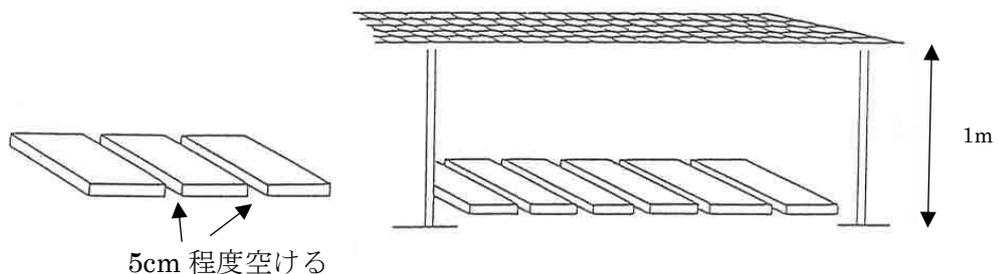
育苗日数の延長が予想される場合、苗の徒長・老化を防止するため、次の対策を行う。

- (1) 苗箱へのかん水は、朝、十分にかん水し、日中に表面の土が乾いた部分のみ（特に苗箱の回りが乾きやすいので注意）かん水するなど極力かん水量を控える。

なお、午後 3 時過ぎはかん水は行わないようにする。

- (2) 昼は換気を徹底し、夜間も外気温で管理する。ただし、強風時に苗に直接風が当たると乾きやすいので注意する。

- (3) 寒冷紗等で遮光し、風通しを良くする。また、苗箱を 5 cm 程度ずらし、箱間の通気を良くする。



- (4) 播種後 25 日を過ぎると（葉齢 2.5 葉程度）肥料切れにより苗が黄化するので、窒素成分で箱当たり 0.5～1.0 g を追肥する。

- (5) 育苗日数が長くなると、ムレ苗が出やすくなるので、タチガレエースM液剤等により予防する。

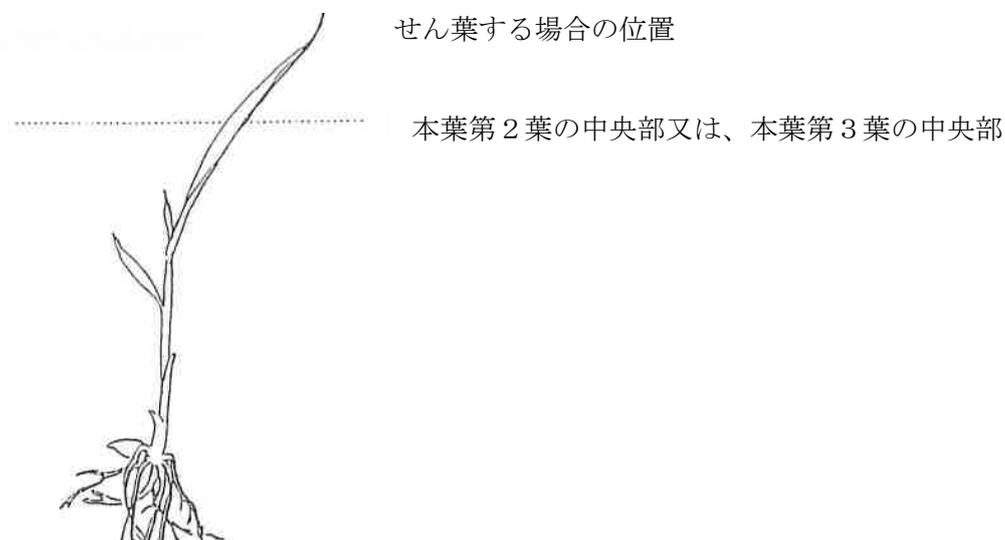
なお、タチガレエースM液剤は、苗立枯病（*フザリウム*菌、*ピシム*菌）にも効果がある。

- (6) 苗が軟弱徒長（苗丈 23cm 以上）し、移植作業に支障を来す場合、以下に注意して剪葉により苗の老化を防ぐ。

- ① カット部分は、（徒長苗の場合第 2 葉、健苗の場合第 3 葉）葉身の半分を剪定用はさみ等でカットする（苗丈 15cm 程度とする）。

- ② いもち病が発生しやすくなるので、防除基準に従い薬剤散布を行う。

※ 苗が多少伸びても、移植作業に支障を来さず、がっちりした苗質であれば剪葉は行わない



3 本田の節水対策

本田の田植え準備は、次の対策を行う。

- (1) 代かき前に、ほ場内に通水用の溝を作り（トラクターのタイヤ跡も効果有り）、短時間に水がほ場全体に回るように心がける。
- (2) 畦畔等からの漏水防止をしっかりと行う。
- (3) 代かきのため一斉に取水すると、どの水田も代かき出来なくなるので、地域ぐるみで取水を調整し、計画的に水利用（順番に水を入れる番水方式）を行う。
- (4) 荒代・植代の2回実施する余裕が無く1回仕上げをする場合、水持ちを良くするため、代かき回数を多くするとともに丁寧に行う。ハローは高速回転にしない。
- (5) 水のかけ流しは無駄遣いになるので絶対にしない。